

第2次亀山市総合計画後期基本計画「序章・重点プロジェクト」（最終案）に対する意見への回答

【共通意見】

項目	意見	回答
全体	平成と令和の表記が混在している部分については、経過年数等がわかりにくいいため、できる限り和暦と西暦を併記するなど工夫すべきである。	ご指摘を踏まえ再検証し、必要に応じ表記を精査いたします。

【個別意見】

項目	意見	回答
全体	今回も「重点プロジェクト」が「5つの大綱」の前に位置付けられているが、以下の理由で大綱の後に記述すべきである。「1. 骨子案の中でもプロジェクトの内容が一切示されていない。、2. 同計画の中に、大綱ごとの総括はあるが、プロジェクトについての総括はない。、3. 令和3年の前期基本計画の総括でもプロジェクトについては大綱の総括の後に位置付けられている。、4. 各プロジェクトの内容が薄い。横串をさしきれていない。、5. プロジェクトに対する体制や取り組み、進捗管理のルールが確立されていない。」。また、前期基本計画の「戦略プロジェクト」から後期基本計画では「重点プロジェクト」へ変更したことが、「重点的かつ分野横断的に」、「優先性と効果性」が発揮できること、さらに大綱の施策、事業に対し、よりインセンティブを与え、時にアジャストやスクラップアンドビルドまで及ぶ効力を発する位置付け、すみわけが明示されることにつながり、合わせて庁内検証体制を改めるべきである。	重点プロジェクトは、様々な地域資源の活用や多様な主体との連携・協働、行政の経営資源の重点化等により、その優先性と効果性を発揮させながら、分野横断的に関連施策の推進を図ることで、後期基本計画の実効性の向上を図るものとして位置付けることとしています。そのため、重点プロジェクト関連施策の事業化に重み付けをしながら、後期基本計画の代表的・先導的な取組として整理していますので、計画構成上、施策群の前に配しています。また、重点プロジェクトの推進に当たりましては、より効果的な展開が図れるような庁内体制を確立してまいります。
全体	第1章「まちづくり編」と第2章「行政経営編」がどう関わりを持つのか。記述及び図式等で説明を加えるべきである。また、記述量が違いすぎるが、同じ「章」という位置付けでよいのか。	基本構想の5つの「施策の大綱」に基づき、まちづくりを展開する関連施策を「まちづくり編」として、また、まちづくりを支えるために地方公共団体である市自体が経営上取り組むべき関連施策を「行政経営編」として、それぞれ区別して計画に位置付けています。なお、編集上のわかりやすさを考慮し、章立てを無くすとともに、施策の大綱との関係性等を示すなどの修正を行います。

項目	意見	回答
全体	「成果指標」の中には「参加者数」「情報発信した数」等々が多く見られるが、施策の方向に基づき、もっと根幹的、本質的な指標はなかったのか。「定量（数）評価」にこだわることなく、例えば「生きがい」「元気」「愛着」「誇り」「活力」「幸せ感」等の「定性（質）評価」も工夫すれば指標になり得ると考える。例えば、この施策、事業により「新たな生きがいを感じた市民の方」から「多くの市民からの喜びの声が聞け、さらに事業充実・拡充とする」等の表現が考えられる。	基本施策ごとの成果指標は、今後も施策評価を行っていくために、その評価項目の1つとして、成果の見える化、わかりやすさ等から定量化したものを設定しています。なお、施策評価は、従来と同様に、成果指標だけでなく、定性的な取組成果や市民満足度等も含めた総合評価として行っていく方向で進めてまいりたいと考えております。そうした中で、ご指摘の点も踏まえ、より適切な数値指標であるか再検討し、必要に応じて修正を行います。
全体	施策の方向性に対し、本当に検証できるのか疑問が残る成果指標が多い。また、すべての分野で数値目標を改善しなくても自治体の特色として現状維持のものがあるのも自然ではないのか。	基本施策ごとの成果指標は、今後も施策評価を行っていくために、その評価項目の1つとして定量指標を設定しています。そうした中で、ご指摘の目標設定の妥当性も踏まえ再検討し、必要に応じて修正を行います。
序章 3 社会経済情勢の変化	「〇〇〇が求められています」という言葉で締めくくられているが、他人事のように聞こえるため、行政目標としての表現に改めてはどうか。	「3社会経済情勢の変化」は、計画案の序章の一部として、地方行政に関連する主な社会経済情勢の変化を整理していますので、一般的な動向や要求としての表現に留めています。なお、本市に影響がある事項は、各基本施策の「現況と課題」において、具体的に捉えながら施策形成へとつなげております。
序章 3 社会経済情勢の変化 (2) 新型コロナウイルス感染症の世界的大流行	「ブレークスルー感染」は、「ワクチン接種をしてもその予防効果を超えて感染すること」に改めるべきである。	ご指摘を踏まえ、分かりやすい表現となるよう修正いたします。
重点プロジェクト 1 重点プロジェクトの位置付けとその役割	「パラダイムシフト」は言葉としてまだ馴染みがない。「新たな価値観や生き方が求められるパラダイムシフト」等の追記や補足説明が必要ではないのか。	用語解説を設けることで対応してまいります。
重点プロジェクト 1 重点プロジェクトの位置付けとその役割 2 重点プロジェクト	4つの重点プロジェクトは後期基本計画の施策の全ての大綱に横串を刺すものであるが、現状はそれぞれのプロジェクトの記載が少なく、分野横断的になっていない。	4つの重点プロジェクトは、必ずしも5つの施策大綱全てに跨って取組を展開するものではありません。22頁に掲載の図は、重点プロジェクトの展開イメージであり、施策大綱の基本施策ごとに横方向に300を超える関連施策群がそれぞれにある中で、それらをプロジェクトの目的に応じて縦方向に関連付けて、経営資源の重点配分等により優先性・効果性を発揮させながら、後期基本計画の実効性を向上させていく概念図であり、実施するプロジェクトの関連施策分布を、忠実に示そうとするものではありません。なお、重点プロジェクトのあり方をわかりやすくするため、表現を検討します。
重点プロジェクト 2 重点プロジェクト 重点プロジェクト1「健都さぷり+」プロジェクト 【プロジェクトの取り組み】 健康都市大学の創設	健康都市大学の趣旨内容が明確ではないため、内容を具体的に明記すべきである。	「プロジェクトの取り組み」とは、取り組みの方向性を施策レベルで位置付けています。「健康都市大学の創設」については、健康を軸とした市民の新しい学びと交流の場の創出を目指すものであり、具体的な内容等については、事業化していく中で明らかにしてまいります。

項目	意見	回答
重点プロジェクト 2 重点プロジェクト 重点プロジェクト1「健都さぷり+」プロジェクト 【プロジェクトの取り組み】 ヘルスポモーションの推進	<p>「自らの健康を改善しようとする活動の裾野を広げ、市民の健康寿命の延伸と健康格差の縮小につなげます。」とあるが、果たして成果が出るのか疑問に感じる。具体的な対策があるのか。</p> <p>ヘルスポモーションにはDX（スマートヘルスケア）の視点を加え、デジタル技術と行動科学によって積極的な心身の健康管理を促す仕組みを構築すべきである。</p>	<p>ヘルスポモーションの推進は、個人のレベルから政策レベルまでの幅広い活動と、その有機的連携が必要となるものと考えています。また、未曾有の感染症による人々の行動変容を一過性にするような取組も必要ですので、そうした観点から、これまでの取組も生かしながら、様々な分野の関連施策を推進し、健康への環境づくり・習慣づくりを図ってまいりたいと考えています。なお、具体的な対策については、事業化に合わせて更に検討を重ねてまいります。</p> <p>具体的な取り組みにつきましては、関連する施策に基づく事業実施段階において、検討してまいります。</p>
重点プロジェクト 2 重点プロジェクト 重点プロジェクト2「まち紡ぎ」プロジェクト 【プロジェクトのねらい】 【プロジェクトの取り組み】	<p>プロジェクトのねらいと取り組みに乖離がある。プロジェクトのねらいではCSWが中心となって課題に取り組むようにとれるが、取り組みでは、市民による活動や助け合い・支え合い活動の促進としている。ねらいの表現を変更すべきである。</p>	<p>プロジェクトの狙いには、ポストコロナ時代における地域づくりの促進とCSW等による地域課題への対応による安心な共生社会の構築を位置付けています。プロジェクトの取り組みにおいても、市民による地域づくり活動に関連する部分と、CSW等が重要な役割を果たす重層的な支援体制の確立に関する部分について記載しており、ご指摘のような乖離はないものと考えております。</p>
重点プロジェクト 2 重点プロジェクト 重点プロジェクト2「まち紡ぎ」プロジェクト 【プロジェクトの取り組み】	<p>地域の歴史や特性を知り、伝統文化を継承すること等を通じた教育効果など、子どもの成長を支える環境の充実（豊かな子育てができるまち）の記述も加えるべきである。</p>	<p>ご指摘いただいたことにつきましては、本プロジェクトに関連する個別施策において取り組みを行ってまいります。</p>
重点プロジェクト 2 重点プロジェクト 重点プロジェクト3「しなやか田園都市」プロジェクト 【プロジェクトの取り組み】	<p>「都市レジリエンス」という言葉は一般的ではない。わかりやすい言葉に置き換えるべきである。</p> <p>都市レジリエンスには様々な側面があり、インフラの強靱化や高規格道路の整備による防災・減災対策だけでは不十分で、医療や公衆衛生に関する記述を加えるべきである。</p>	<p>用語解説を設けることで対応してまいります。</p> <p>「しなやか田園都市」プロジェクトは、大規模自然災害に対する早期復旧復興ではなく、都市インフラの強じん化や高規格道路の整備促進等の事前防災・減災による災害に強いまちづくりを進めようとするものです。プロジェクトの取組は、その特徴を示すため中心的なものを掲げておりますが、例えば、防災情報伝達、広域的な災害対応力の強化、公衆衛生等の分野は、当該プロジェクトでの効果的な連携が期待できる場所です。一方、プロジェクトに対する経営資源の重点化や優先性等を考慮すると、プロジェクトの取組範囲を絞り込むことで、事業効果が発揮される側面もありますので、そうした視点も踏まえ、更に詳細なプロジェクトの取組範囲は、事業化段階で整理してまいります。</p>
重点プロジェクト 2 重点プロジェクト 重点プロジェクト4「未来へのトビラ」プロジェクト 【プロジェクトの取り組み】	<p>積極的な通学路改良など、子どもを事故や犯罪から守る生活基盤の向上（快適に過ごせるまち）に関する具体的な記述が少ない。また、コミュニティスクールや地域に根ざした子育て支援など、市民力や地域力についても記述すべきである。</p>	<p>ご指摘いただいた視点につきましては、子育て・教育環境の充実に関する取り組みの中で、関連する個別施策において取り組みを進めてまいります。</p>